

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

ホームページ <http://shakaitsushin.cool.coocan.jp/> e-mail: [shakaitsushin@nifty.com](mailto:shakaitsushin@nifty.com)

東京都渋谷区本町六丁目二八―二九〇四 電話・FAX(03)3299―5367

郵便振替 〇〇―〇〇―九―五八四三一 労金 中央労金本店 No.1154163

## くもくごく

### ■ 巻頭言 ■

どこまで反動化するか  
独占資本とその政権

原野人：2

情勢について (I) 国内

編集部：3

◇ 信州 松本通信 ◇

上野 反合研のみなさまへ

中澤 秀行：9

反労働者政策が明らかに

憲法も平和も労働者のたたかいに!

沢井 清：11

大阪府警本部前に反弾圧元日集会

読者からのおたより

.....12

# 旬刊 社会通信

NO.1376

二〇二三年二月一日号

二〇二三年二月一日発行

## どこまで反動化するか独占資本とその政権

政府は「国家安全保障戦略」、「国防衛力整備計画」、「防衛力整備計画」の三文書を昨年師走の16日にそそくさと閣議決定した。これを三文（さんもん）にも値しないなどと軽視するわけにはいかない。独占資本とその政権は、いよいよ反動化を強める。

中曾根康弘政権も、安倍晋三政権すらも決定しあぐんでいた「敵基地攻撃能力（反撃能力）」を整備することを岸田文雄政権は公然と決定した。専守防衛を蹴飛ばして、戦後歴代政権が否定してきた他国領域を攻撃する戦力を保持することを宣言したのである。

資本主義が続く限り、独占資本と自民政権の反動化は螺旋状的、弁証法的に否定の否定を繰り返しながらどこまでも進む。いつか来た道を通るかに見えて、一段と危険な道を登っている。岸田首相の「新しい資本主義」とはこのような資本主義のことである。

12式誘導弾やトマホークや高速滑空弾や極超音速誘導弾のごとき長距離攻撃のできる侵略的兵器を多数装備する計画である。核兵器も「核の傘」の下で事実上共有化している。岸田文雄は被爆県を代表する立場でありながらこれらを進め、かつて宏池会を代表した宮澤喜一が啞然とするほどの飛躍的反動化を推進する。

敵基地を攻撃するとなると、当然に日本の国土は反撃の対象となる。真珠湾を攻撃したことによって東京等々の大空襲、沖縄県民の悲劇、広島、長崎への原爆投下等の反撃でどれほどの犠牲を被ったことか。これからの戦争となると双方の犠牲は更に飛躍的に大きくなる。当初は限定的な衝突のつもりであっても、やがてミサイルの全面的な撃ち合いとなる。

この三文書によって日米は敵基地攻撃能力で共同対処すると、日米一体化を鮮明にした。台湾をめぐり、アメリカは介入を公然化し、米中の緊張は高まっている。もし米中戦争が起きれば、日本は相手の標的になる。岸田首相は西南諸島の部隊を倍増させる考えを明らかにしたが、これらによって米軍基地をもつ沖縄はもとより、日本列島は全面的に攻撃対象となる。日本列島の海岸に林立する原発は絶好の攻撃目標となる。

「防衛力整備計画」などの3文書が実行に移されるとともに、三菱重工を頂点とする独占資本は目先の利潤を大いに増やすことができる。当初はアメリカ資本の兵器を購入することも少なくないが、すぐに日本の独占資本はその技術を導入（特許やノウハウなどを購入）し国産化を進める。兵器装備拡大とともに労働者国民には大変な避けようもない重税の雨あられ、いや砲弾やミサイルが飛んでくる。あらゆる福祉も人間らしい生活も吹き飛ばされる。

原発推進への岸田政権の豹変も同様である。中曾根政権も田中角栄政権も何のてら何もなく原発を推進した。安倍政権はアンダーコントロールなどという嘘の上にベースロッド電源だ、再稼働だと推進した。岸田政権は「原発依存度を低減する」との公

約すら反故にして、福島事故以前より過酷な60年超の稼働を認め、さして違わない「次世代型原発」で建て替えや新增設を推進する。三菱や日立や東芝や九電力等のために労働者や農民を犠牲にして。  
(原野人)

## 情勢について (I) 国内

### はじめに 戦争の時代

#### I 腐敗、墮落、反動化 そして排外主義

- 1、モリ・カケ・サクラから岸田内閣―4人の大臣が辞職
- 2、ヨタヨタ、ボロボロの岸田内閣 戦争準備が始まった

1) 「仮想敵」 敵を特定し大軍拡

2) 安全保障3文書 ①国家安全保障戦略 ②国家防衛戦略 ③防衛力整備計画

3) 「防衛」―国防費が国民を食いつぶす 23年から5年間で43兆円

(1) 世界第3の軍事大国 国防費はGDPの2%で(2027年以降)

(2) 米韓との共調で北朝鮮 中国の軍事的脅威宣伝

(3) 「自由で開かれたインド太平洋」戦略 アジア版NATOめざす

(4) 産軍複合、戦争体制

(5) 秘密漏洩 海上自衛隊「摘発」 ― 軍引き締めか

3、北、中国、ロシアは敵 備えよ！

#### II 原発政策見直し

1、原発寿命 40年から60年超

2、新原発つくる

3、脱炭素に原発必要―経済安保

4、目的は原発輸出と技術開発 原発は儲かる

#### III 学会議会員選考

1、政府に逆らう奴は排除する

### 保守(支配者たち)の哲学(世界観―考え方)

#### I 労働者の考え方、意識の成長は絶対に許さない

1、おれたちと労働者は世界が違う

2、おれたちの社会的責任は労働者をコマネズミのように働かせ支配すること

3、かれらの社会的責任はおれたちに従うこと。そのために法はある

#### II 「反抗・抵抗」「反乱」おこさぬ労働者づくり

1、洗脳は統一教会、宗教だけでない

2、労働者を洗脳(マインドコントロール)せよ

#### III 洗脳―思想攻撃の中心

1、階級闘争、マルクス主義は終わった

2、「脱イデオロギー」「多様化」の時代

- 3、政労資が協力し、社会の改良・改革だ
- 4、社会革命なんてとんでもない

#### IV 実践「I」 生産性運動―2つの対立する考え

- 1、マルクス「唯物史観」『共産党宣言』（岩波文庫）から

1) ブルジョア階級（資本家階級）は生産用具を、したがって生産関係を、したがって全社会関係を絶えず革命していなくては生存できない。

2) 生産の絶えまない変革、あらゆる社会状態のやむことのない動揺、永遠の不安定と動揺は、以前のあらゆる時代とちがうブルジョア社会（資本主義社会）の特徴である

3) 固定した、さびついたすべての関係は、それにもなう古くて尊い、いろいろの観念や意見とともに消え去ってしまう

4) そして、それらが新たに形成されても、それらはすべて、それが固まるまえに古くさくなってしまふ

#### 2、連合ビジョン（2019年）「生産性運動」について解説

1) 生産性とは、なによりも精神の状態であり、生存するものの進歩、あるいは不断の改善をめざす精神運動である

2) それは、今日は明日よりも、よくなるという確信であり、さらに明日は今日にまさるといふ確信である

3) それはまた条件の変化に経済社会生活を不断に適応させていくことであり、新しい技術と新しい方法を応用しようとする不断の努力であり、人間の進歩に対する信念である

#### 3、この考え方、みなさんはどう考える？

1) 科学・技術の発展が労働者におよぼす影響

2) 現在社会はもうけ第一の資本主義社会である

3) 科学技術は、したがって資本のもうけに利用され、「反抗」「抵抗」がない時は、今日は昨日よりよくなることはない。

4) 連合結成以降の春闘がその証明である

5) 後者の考え方は「信じるものは救われる」、だから生産性運動を信じようという宗教そのものである

6) こうした考えのもとに、資本（会社）の生産性運動は行われているのであるから、生産性運動は洗脳、マインドコントロールそのものであり、政府もまた統一教会と同じとなる

#### V 実践「II」 SDGs（持続可能な開発目標）

1、発足 国連サミット（2015） 2030年への目標

2、目標 17項目と169の標的

3、拡散 ダボス会議（独占資本家たちのサロン）で2017年に実践目標へ

4、日本では 2016年に本部がおかれ、19年から実施

5、SDGs 17項目 これを整理すること

- 1) 貧困、飢餓
  - 2) 衛生、健康、水、トイレ、福祉
  - 3) 教育、文盲
  - 4) 気候・環境・クリーンエネルギー、陸・海の豊かさ
  - 5) 平和と公正・公平・平等
  - 6) ジェンダー平等
  - 7) 住み続けられるまちづくり
  - 8) パートナリーシップで目標達成
    - (1) つくる責任、つかう責任
    - (2) 働きがいも成長も
    - (3) 産業と技術革新の基盤づくり
    - (4) これらを達成するのが生産性運動
- 6、SDGsの問題点
- 1) 17項目は経済、政治、社会の矛盾の羅列
  - 2) 矛盾が生まれる原因にふれてない
  - 3) これでは塞(さい)の河原の石積と変わらない
  - 4) 矛盾は永遠におそいかかる

## I 保守の基本政策 秩序、家族、教育、国家

### I 秩序

- 1、公共の福祉、財産権（憲法の諸条項）
- 2、官僚機構、裁判所
- 3、軍 そして警察

### II 家族

- 1、共同体の基礎
- 2、少子高齢化時代克服の基礎

### III 教育

- 1、歴史・伝統・文化 憲法第一章
- 2、いわゆる“道徳”（儒教）
- 3、“国づくり”のもと

### IV 国家

- 1、軍隊ないのは「ダメ」国家 ↓ 「ふつう」の国家
- 2、前文、9条、明文改悪

### V 言論の自由

- 1、メディアの統制（新聞、TV、ラジオ、最近ではネットがあるが）
  - 2、民主主義はみせかけだ
  - 3、審議会政治 「防衛力強化に向けた有識者会議」（11月22日）
    - 1) 「敵」攻撃を提案 先制攻撃論
    - 2) 有識者はどんな連中か
- (1) 構成 10人 マスコミ3（日経・読売・朝日）、元官僚2（外務・防衛）、学者2、

4、これがブルジョア民主主義 権力者は「おあとはメディアの皆さんよろしくおはかりを」

それでも矛盾はデカクなる

I 労働者の意識 「階級意識」をおさえこむ

1、小金持ち(プチブル)意識を植えつける

1) 持家制度、持株制度から投機のすすめ

2) NISAだ iDeCoだ 将来不安を逆手にとつて

(1) 貯金より投資だ

(2) 年金だけでは暮らせない、個人年金(確定拠出年金)で自衛だ

3) 起業のすすめ

2、貧乏に慣れさせる

3、企業意識植えつける

II おどし 心をちぢませ積極性奪う(Jアラート)

1、オレオレ詐欺にご用心 バスや電車に自治体広報

2、地震、台風、大雨に 避難先考えて

3、最近の特徴は、北朝鮮のミサイルが飛んでくる、中国が尖閣、沖縄、台湾に攻めてくる、ロシアは何をするかわからない

III ごまかし 「新しい資本主義」論

1、言いだしつぺは日本経団連、それに岸田君が食いついた

1) 岸田君はオバカさん

2) ダボハゼのように食いつくだけ

3) 深く考えぬ

2、経団連が考える「新しい資本主義」像

1) 背景

(1) 労働運動の墮落(だらく)

① 階級的労働運動から労資協調的労働運動へ

② 社会主義をめざす(社会革命) 労働運動から資本主義の中で生活改善めざす労働運動

(2) 連合春闘(ベア) 要求

① 1992〜2003 ゼロ

② 2004〜2013 賃金改善分 1%目安

③ 2015〜2022 定昇+2%程度 ↓ 「4%程度」

④ 2023 定昇+3%程度 ↓ 「5%程度」

(3) 連合春闘 考え方 生産性基準原理にもとづく賃上げ(生産性の範囲内での賃上げ)

(4) 賃上げ要求の根拠 名目賃上げ率(定昇+ベア) || 消費者物価上昇率+実質生産性上昇率

① 物価上昇分の賃上げ ↓ 実質賃金の維持

- ② 経済全体の生産性の伸びに合わせ ↓ 実質賃金引き上げ
- ③ 個別企業の業績 ↓ 一時金に反映
- (5) 連合「23春闘基本構想」の考え方

① それぞれの企業・個人が短期的な自己利益を追求していけば、スタグフレーションに陥りかねない

② 社会全体で中期的・マクロ的な視点から、…GDPも賃金も物価も安定的に上昇する経済のステージを変えていく。

※ 1、この方針は「空想」

2、この「空想」は「連合ビジョン」(本誌4頁IVの2参照)

3、連合は現代社会が階級対立がない「お伽の国」と夢想し

4、資本主義下で計画経済ができると夢をみる

2) もう一つの背景

(1) 「新自由主義」(独占資本の自由競争)下で「格差」(貧困)が増大した

(2) コロナが貧困をさらに大きくした

(3) 貧困解消に労資パートナーで所得をふやす

(4) 市場の自由な競争にまかせず、官民共同で経済成長めざす

## 矛盾の根本

### I 生産力と生産関係

1、資本主義という生産関係(いわば「着物」が生産力(いわば身体)に合わなくなつた

2、不況、恐慌 デフレはだらだらした恐慌状態

### II 過密と過疎 都市と農村の対立 (地域再生)

### III 人口減少 労働力足りない (子どもつくれ)

## 歴史—今を知るには歴史を知ること

### 1、自民の願望

(1) 憲法改悪 法と秩序の国をつくる

(1) 前文、9条取り除く

(2) 国民主権、基本的人権は「公共の秩序」を口実に制限

2) 改悪への条件づくり

(1) 強行突破だ 鳩山改憲論

(2) 小選挙区制導入だ 岸・田中

(3) 憲法を「つくる」力を強め、憲法を「まもる」力を弱める 中曽根

① お座敷をきれいにして立派な憲法を安置する(成長の家での講座)

② 「まもる」力は労働者階級の組織の総評と社会党

③ 「まもる」力 総評と社会党を壊す

### 3) 中曽根第二臨調

(1) 資本主義を否定し社会主義をめざす労働組合(階級的労働組合)の解体

(2) 3公社(国鉄、専売、電々)、5現業(郵政・造幣・印刷・国有林野・アル

コール専売)の民営化

4) 3位1体で

- (1) 労働戦線の右翼的再編成
- (2) 政界再編成 保守2党制の条件つくる

① 民間政治臨調

② 21世紀臨調

- (3) 小選挙区制導入 社会党をつぶす ― 新しい党をつくる
- (4) 民主党は総保守勢力（政・財・官・学・労・マスコ―事務方は日本生産性本部）がつくった

2、民主党 ― 階級的基礎

1) 中心勢力 ― その1 日本生産性本部

- (1) マルクス主義を「イデオロギー」といい、「脱イデオロギー」の時代を宣伝
- (2) つまり労働者と資本に対立はない
- (3) 労資協調の組合を政府・財界とともに
- (4) つくった 日本生産性本部

2) 中心勢力 ― その2 労働組合連合

- (1) 労戦再編で1989年結成され
- (2) 労資協調の旧同盟の路線をひきつぐ連合
- (3) 連合は旧同盟のゼンセン（U Aゼンセン）、全金同盟（J A M）と大企業ユニオニズム（J C）の2つの流れで形成される

3) 中心勢力―その3 商業ジャーナリズムと細川護熙（日本新党）と松下政経塾

- (1) 松下政経塾 1979
- (2) 3点セット+α 1989 リクルート汚職、消費税、ウサギ小屋―山が動いた参院選
- (3) 日本新党結成 1992 細川連立内閣 1993 小選挙区制 1994 小選挙区制での第一回選挙 1996
- (4) 社会党消滅 1996 社会民主党
- (5) 民主党は総保守勢力がつくった 結党 1996（鳩山・菅） 第2次民主党 1998 自由党と（小沢一郎）と合併 民主党第一次（鳩山内閣） 2009 ― 2012 安倍内閣

民主混乱へ

3、野党の動向

1) 立民、国民の支持基盤は連合

- 2) 連合は、財界・自民とパートナーシップを強調
- 3) 旧民主は税・財一体改革が持論、連合も同じ
- 4) 連合は国の基本問題（憲法と9条、安保）で対立 目下論議凍結
- 5) 安保3文書
  - (1) 連合 「反対」の姿勢乏しく
  - (2) 国民 賛成
  - (3) 立民 反対せず、財源問題に力点

6) 連合3役 事務局長は日教組、国の基本問題の論議再開も

7) 立民は維新と共闘、今年 国会でも維持



- 8) 立民と国民の合同? ↓立民分裂? ↓新党結成?
  - 9) れいわは目立つことやり、共産はこれまでの路線で動くも存在感はうすくやぶる
- ## 21世紀の経済

### I 経済状況

- 1、マイナス（停滞、へった）の指標
  - 1) GDP（世界比）
  - 2) デフレ（経済成長） だらだらした恐慌
  - 3) 人口・出生率（婚姻率）
  - 4) 賃金
  - 5) 分配率 搾取率強化
  - 6) 円の価値 円安
  - 7) 金利 低金利
  - 8) 社会福祉
- ### 2、プラス（ふえた）の指標

- 1) 企業業績 経常利益、役員報酬、配当、内部留保
  - 2) 債券、土地（不動産）、国際商品への投機
  - 3) 国債発行量
  - 4) 財政赤字
  - 5) 非正規労働者、再雇用労働者―低賃金の重石
  - 6) 格差、貧乏
  - 7) 税金、社会的負担（各種保険料）
- ### 3、1と2が示すこと
- 1) 今の社会は労働者が貧しくなれば、支配する者は豊になる
  - 2) 労働者が豊になるには社会を変えるしかない

### II これからどうなる

- 1、戦争体制の強化 ― 令和臨調 ファシズム、戦争体制を下からつくる
- 2、財政再建 「入」をふやし「出」を減らす
- 1) 軍事費 膨張
- 2) 金利は上がる
- 3) 少子高齢化はすすむ
- 3、可れん誅求の時代

◇ 信州 松本通信 ◇

## 上野反合研のみなさまへ

近くの農協の直売所（道の駅）で、坂北村産の米とキビを原料としたお餅を買い、食しています。そんな訳で、2016年10月30日に、信州は坂北村西条の「とくら温泉」で、私がおしゃべりした時のレジュメを取り出して見てみました。

『労働者の世界観』を読み終え、新たに『資本論入門』に取り組むという上野反合研の皆さんに、『資本論』と『資本論入門』について拙い話をしたことを思いだしま

す。これらは、拙宅近くの扉温泉明神館で翻訳されたり執筆されたりしたのです。あの時、『資本論入門』には一通り眼を通してから参加させてもらいました。

『資本論入門』の174頁に、「マルクスは、吝嗇を描くバルザックを『資本論』の中で激賞している。」と記されています。当時この記述について調べる時間がなかったのですが、過日『資本論』第三巻を読んでいますと、このバルザックと出会いました、ちよっぴりうれしくなり、紹介したくなってしまいました。バルザックの小説名は『農民』ということで、次のように記されています。

「資本主義的生産によって支配されている社会状態の内部では、非資本主義的生産者も、資本家的観念によって支配されている。何といっても、現実の事態の深い把握によって他を抜いているバルザックは、その晩年の小説『農民』において、小農民が、高利貸の好意をつなぐために各種の労働を無償で提供していながら、彼自身の労働が彼自身にとつては何ら現金支出をも要しないからとて、自分が高利貸に何も与えていないと思つてゐることを、適切に描いている。かようにして、高利貸の方は、一たたくで二匹の蠅を殺す。彼は労働賃金の現金支出を免れるとともに、自分の畑から労働を引き上げることによって、ますます破滅してゆく農民を、ますます深く高利蜘蛛の網に巻きこむのである。」(『資本論』岩波文庫第六分冊60頁)、と。

『農民』について、調べてみますと戦後まもなく上・下二冊本で岩波文庫として刊行されていきました。さて、手を伸ばすべきか、大いに思案橋であります・・・。

そして、『資本論』の中に引用されている文献だけで考えても、マルクスという人は一体どういう人間かと思えます。

2023年はマルクス没後140年です。ガリレオやダーウインが人間社会に受け入れられるのに、どのくらいの年月を要したのか、そして、いまだにこの二人を受け入れようとする勢力(キリスト教関係)が存在していることを考えると、マルクスが受け入れられるにはまだまだ時間がかかるということでしょうか・・・。しかし、戦前のように、マルクス・エンゲルスの著作を刊行すること自体が命懸けだったことを考えると、大分ましでしょう。

マルクス、エンゲルスを、彼等の教えるように正しく理解すること、これも中々大変なことだと思います。二人は『共産党宣言』で、唯物史観によって、書かれた歴史を総括しました。その25年後、「1872年ドイツ語版への序文」で、次のように記しました。『宣言』のなかにのべられている一般的諸原則は、だいたいにおいて、今日もなお完全な正しさを失っていない。個々の点はどこどころなおさなくてはならないだろう。これらの原則を実際にどう適用するかは『宣言』がみずからが言明しているように、どこでも、またいつでも、歴史的にあたえられた事情にかかるものである。」、と。

日本において、「実際にどのように適用すべきか」を模索し、「歴史的にあたえられた事情」に則して、正しく適用することに全力を挙げた先達が、堺利彦であり山川均であり向坂逸郎等であると考えています。

「総評・社会党ブロック」の運動体が、今日のような状態になってしまっているその原因について、真摯に考察することが求められていると思えます。

統一地方選を間近に控えるなか、『家族・私有財産・国家の起源』で、「有産階級は普通選挙権をつうじて直接に支配するのである。」(岩波文庫229頁)以下の「普通選挙」に関する記述を、読み深めたいと思っっています。信州松本は、日本における普通選挙運動発祥の地でもあります。

継続は力なり！です、日々食事をするように古典と接して下さい。上野反合研の皆様のご活躍を祈念しております。  
(2023年1月6日 中澤 秀行)

## 反労働者政策が明らかに

憲法も平和も労働者のたたかいに！

大阪府警本部前に反弾圧元日集会

5回目の反弾圧元日集会が大阪府警本部前で行われ、寒風飛ばす500名弱の参加の声が府警本部前大阪城公園に響いた。主催の反弾圧大阪実行委員会全港湾大阪支部小林委員長は「昨年多くの先輩が亡くなったが、今の情勢であえて黙とうはせず、今年も一年間たたかうことを決意したい」と挨拶。続いて、関西生コン支部湯川委員長は「この国はどうなっていくのでしょうか。関生裁判で労働委員会での結果はほぼ全て勝っている。

しかし、そもそも、労働運動が刑事事件になること事態おかしいが、刑事事件とされているものは検察側は『はじめに罪ありきで、嘘も百回いえば本当になる』という無茶苦茶なことをしてきている。

労働運動を弾圧し、原発・防衛費などこの国に住む人の事は全く考えられていない。3月から関生裁判の判決が出る。益々たたかいをすすめたい」と。続いて、反弾圧東海の会、反弾圧京滋実行委員会、兵庫の会をはじめ、反弾圧大阪実行委員会参加団体の各連帯挨拶が続いた。

原発推進増設、防衛費の倍増・軍備増強、安保3文書の改訂、社会保障・福祉の削減、増税など最悪の自公政権。が同時に、これら戦争に反対し平和を守る力なども、やはり労働運動を強化していく中でしかできないと多くの発言者が述べた。

また、若狭の原発を考える会の木原壮林さんは関生のたたかいの意義をこう訴えた。「かつて悪い政治とは、物価高を招き格差を拡大福祉をないがしろにする。また消費税を煽り市民運動や労働運動の権利を規制し戦争を準備するといわれた。今まさにそれが自公政権。一昨年10月のエネルギー計画から昨年8月の大転換の原発推進・軍事費倍増路線。この転換は原発依存社会へ方向転換で、原発企業を救済するために福島の事故をないがしろにするものです。

こららは憲法を蹂躪し戦争の前夜です。関生支部は大きな試練だが、克服するたたかいは同時に反原発運動や市民運動を育て、反転攻勢につながる条件をも作る。軍隊がなかったら戦争は起きない、原発もなければ重大事故も起きない。国際主義の旗を掲げて軍隊も原発もない社会を作りましょう」と。

Xバンド基地反対闘争、議員、統一自治体選挙の決意、学生、介護職場のたたかいの報告など多彩に報告や連帯の挨拶が行われた。

関生のたたかいははじめ労働運動の強化で岸田政権の労働者敵視の政策、民主主義の弾圧や戦争政策に反撃しようとする参加者全員が決意した。

(かんなま勝手連・しが 沢井清)

## ◇読者からのおたより◇

**争議の元旦行動** 争議の元旦行動第5回目です。ある総評オルグの尊敬する先輩曰く、口先だけのオルグか真の闘うオルグかのメルクマールは2つあって、①労働戦線問題についてたまたかかどうか、②争議の元旦行動に参加したかどうか、だと言われた。(稲村守)

**巨大風力発電計画に異議あり!** 宮城の様子の報告(巨大風力発電計画に異議あり! 裏に原発の再稼働あり!)です。通信に載せていただきたく、メールしました。加除訂正など必要なことがあります。あれば、連絡ください。(宮城 相沢瑞男)

**原発のない社会を目指して、福島第一原発事故の国の責任を明確に** 2022年、振り返れば物価高、コロナ禍、軍事増強、原発再延長と新設等々と国民を蚊帳の外、独裁と言っている程のやり放題でありました。政府は円安、物価高対策と言っているが結果は多少の税金投入だけであり、それより消費税を廃止、または一時停止すべきと考えるのが妥当だと思います。火力発電は二酸化炭素を排出するから原発が有効だと誤魔化す。自然エネルギーである太陽光、風力等の再生エネルギー、特に洋上風力が有力と言われるが、日本はヨーロッパよりも大きく遅れています。

2023年は原発に頼らない。原発のない社会を目指して、福島第一原発事故に対する国の責任を明確にしていかなければなりません。若い方、子孫を守るため、多くの善意ある皆様方と結集していかなければならないと思います。(原発事故被害者双の会 國分富夫)

**根室本線(富良野ー新得間) 存続を! 緊急会合のお知らせ** JR北海道は全28線区が赤字で「単独では維持困難」10路線13区間を発表して6年経過しました。路線廃止・バス転換方針の5路線で、残された根室本線富良野ー新得間は存続の正念場となっています。これまで当会は、国交大臣あて存続署名、十勝集会、帯広集会、札幌集会、意見交換会などを行い、内閣総理大臣、国土交通大臣、北海道知事などに根室本線の存続を求める要望書を提出してきました。

この度、富良野鉄道未来の会・石北沿線ふるさとネットワーク・当会の三団体は、北海道知事あて緊急署名の取組みを行います。こうした状況下、緊急会合を開催します。

▽日時 1月20日(金)午後6時30分

▽会場 新得町公民館・視聴覚室

▽内容 経過と状況、緊急署名の取組み

▽主催 根室本線の災害復旧と存続を求める会

(問合せ事務局…佐野周二)

**春は遠くて待ち通しい** 朝から生憎の空模様の中 移住して3度目の外食をして来ました。うら亭名物のスパカッツを前にした ぞら猫さん。私は 鶏ササミカツを。ご飯の量が多くて大変でした。こんな感じで詠んだ一首をー

うら亭で 黙食二人降る雪の 響きし音はカラオケ画面

招き猫の私達(一番のり) 次つぎに客が入ってきて テーブル席が埋りました。

明日は 小正月、小豆粥、お菓子の日、東京世田谷ポロ市と 盛り沢山です。どんど焼きも。

今朝の最低気温は マイナス3.8℃と 暖かい朝でしたが、月曜日から また厳しい寒さとなるよう、なかなか寒さに慣れません。20日が大雪、春は遠くて待ち通しいです。

(1月14日 北海道池田町 兼子千栄子)